

ふれあいだより



鳥取大学附属特別支援学校

H25. 1. 30

心豊かな子どもを育てよう！

副校長 竹信 純一

新年を迎え、心新たな気持ちで今年チャレンジすることを心に誓われたことでしょう。今年もどうぞ学校運営にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

学校では日々様々な学習活動を通して、子どもたちに社会自立・参加する力を育てています。また一人一人の発達段階を的確に把握した上で、どのような学びが必要なのかを教員同士で話し合いながら進め、学習単元が終わるたびにどんな力が身についたのかを検討し、次の段階へとつなげています。特に知識だけ提供するのではなく、体を動かしたり、具体物やパソコンを活用したり、実際に出かけて本物に触れたりしながら学ぶようにしています。

しかし、すべての体験活動ができるわけではありません。そこで大切なのが本です。自分の知らないことや経験できないことなど、いろいろなことを読書を通して学ぶことができるのです。豊かな心を育むためには、多くの人と関わり、人の思いや痛みなどを共有することが大切なことです。読書を通して、いろいろなジャンルの本に接していろいろな人の生き方を学んでほしいと思います。

残念ながら、本校の図書館の蔵書数は十分ではありませんし、学校図書館司書も常勤とはなっていません。このような環境ですが、子どもたちの貸し出し冊数はどんどん増えてきています。また図書館に置かれていない本は県立図書館へ注文して取り寄せています。最近、「〇〇の本はありませんか。」と尋ねてくる子どもも増えてきています。このような要望に少しでも応えて、図書館を充実していくことが重要なことであると考えています。

平成24年度 公開研究会

研究主任 日野 知子

12月6日（木）は、本校の公開研究会でした。今年度から「社会の中で主体的に生きる力を育む授業づくり」「～自分づくりを社会につなげる支援の工夫～」を研究テーマに掲げ、「主体的に生きる力」について検討し、その力をつけるための「授業づくり」について研究してきました。

当日は、暴風警報発令のため急きょ臨時休校となってしまう、授業公開ができませんでした。生き生きと活動する子どもたちの姿を見ていただけなかったことは、とても残念だったのですが、学部ごとに分科会を持ち、公開予定だった授業内容や日頃の取り組みについて説明することで、参加者の皆様に喜んでいただくことができました。

また、講演会では岐阜大学の別府哲先生をお招きし、「自閉症児者における共感的自己肯定感を育む」という演題で講演をしていただきました。先生のこやかな表情と穏やかな口調に、温かいお人柄を感じました。そして、自閉症児をよりよく理解するために特徴的な内面について具体的にお話していただくとともに、「共感的自己肯定感」という本校の「自分づくり」に似た取り組みを聞き、共感を覚えました。参加者の皆様からも、「もっと聞きたかった。」「とてもよく分かった。」とたくさんの感想をいただきました。半日開催ではありましたが、とても充実した研究会でした。

これから本年度の研究のまとめをし、来年度に生かしていきたいと思っています。



研修旅行 ～福岡に行ってきました～

高等部専攻科主任 馬場 理恵子

12月12日から2泊3日の日程で研修旅行に行きました。1ヶ月以上も前からみんなで話し合って計画を立てての旅行です。今年度は、毎年参加していた「全国専攻科研究集会」には参加しないで、4月に開設されたばかりの福祉型専攻科「カレッジ福岡」の専攻科生と交流することにしました。お互いの県や学校の紹介をしたり雑談をしたりと時間がもっと欲しいと思うぐらい有意義な交流となりました。

観光場所に行く時には、調べ学習からその場所を担当していた生徒が、先頭になってみんなを案内したり次への指示を出したりすることができました。困ったりわからなくなったりした時には、みんなで集まって相談したり、研修旅行のしお리를見たりして、なるべ「次は、昼食を食べに行きますよ。」く教師に頼らないで、自分たちで解決しようという態度が見られ、11月に実施した専攻科合宿からの成長を感じました。



吉野ヶ里歴史公園

人との関わりの場面では、チケット売り場や店の場所などがわからない時に、自分から知らない人に話しかけて尋ねることもできました。また、ある生徒は、特急列車の中で隣の座席の方に自分から話しかけ、雑談を交わしたという話を聞き、びっくりするとともに大きな成長を感じ嬉しく思いました。

研修旅行で培った自信と積極性を今後の生活にも生かしていけるように支援していきたいです。

白兔養護学校・鳥取養護学校との交流（中学部）

中学部主事 児島 陽子

中学部では、7月に白兔養護学校と、12月に鳥取養護学校と交流を行いました。いづれも相手校に出かけての交流で、生徒たちは相手校の友だちとふれあい、和やかな雰囲気の中で、楽しく交流することができました。

交流では、はじめにグループに分かれて自己紹介を行い、お互いに自分の好きな遊びや勉強、スポーツ等を紹介しました。その後、白兔養護学校ではグループ対抗の「玉入れゲーム」をしました。グループのメンバーで協力して、カラーボールを時間内に透明なビニール袋に入れます。1回目は個々で拾っては入れていたのが、2回目になると声をかけ合って、袋を持ったり、ボールをリレーして運んだり協力する姿がどのグループにも見られました。また鳥取養護学校では、チーム対抗の「風船バレー」をしました。これもチーム全員が必ず風船に触れてから相手チームに返すという特別ルールで行ったところ、はじめは戸惑っていた



生徒たちが、次第に「～さんだよ。」と進んで声をかけて風船をパスする姿が見られました。最後にじゃんけん列車をしたり握手をしながら歌を歌ったりしましたが、別れる時には、名ごり惜しそうに手を振る姿や声をかけ合う姿がたくさん見られ、楽しい活動を通して、自然に生徒たちはお互いを理解し合い、協力できるようになるのだと感じ、交流することの大切さや素晴らしさを実感しました。

